



令和6年11月18日

報道関係 各位

文部科学記者会、科学記者会  
名古屋教育医療記者会と同時発表

名古屋市立大学 教育研究部  
研究開発課長 中井 淳子  
電話：052-853-8639

## 世界レベルの研究拠点の形成に向けて 「卓越研究グループ支援事業」を開始しました

名古屋市立大学 なごや先端研究開発センターでは、この度、先端的かつ国際性の高い世界トップレベルの研究拠点の形成を進めるため「**卓越研究グループ支援事業**」を開始しました。この事業は、多様な研究者の共創と融合により、卓越的かつ独創的な優れたアイデアで学際的研究分野を開拓し、さらに国際的な連携で研究を推進していくグループの創生を目的としており、令和6年度より2グループを支援いたします。

本事業を通じ、インパクトの高い国際共著論文数を増加させ、ひいては科学技術の進展、社会課題の解決やイノベーション創出に貢献してまいります。

### ■ 支援グループ（令和6年度～）

研究グループ代表者	研究課題名
医学研究科 脳神経科学研究所 神経発達・再生医学分野 教授 澤本 和延	脳神経科学の将来を担う若手研究者の育成と 共同研究支援による研究力強化促進プロジェクト
医学研究科 加齢・環境皮膚科学分野 教授 森田 明理	光が切り拓く新たな研究開発拠点形成

※各グループの研究活動概要は別添のとおり

### ■ 支援内容

- 研究力の強化や次世代の研究者の育成を進め、新たな価値やイノベーションを生み出す研究拠点としての地位を築き、世界トップレベルの研究大学を実現するための活動に対する研究費を**3年度にわたって支援**します。
- 併せて、グループ活動を支援する人材の人件費や、海外の大学等との国際共同研究を推進するための研究者派遣・招へいにかかる費用を支援するメニューを用意し、研究者を強力にサポートします。

#### 【研究に関するお問い合わせ】

医学研究科 脳神経科学研究所 神経発達・再生医学分野 教授 澤本 和延  
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

医学研究科 加齢・環境皮膚科学分野 教授 森田 明理  
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

# 脳神経科学の将来を担う若手研究者の育成と共同研究支援による 研究力強化促進プロジェクト

研究グループ代表者: 澤本和延 (医学・教授)

研究グループPI: 齊藤貴志 (医学・教授) / 川内大輔 (医学・教授) / 酒々井眞澄 (医学・教授) / 野村洋 (医学・寄附講座教授)

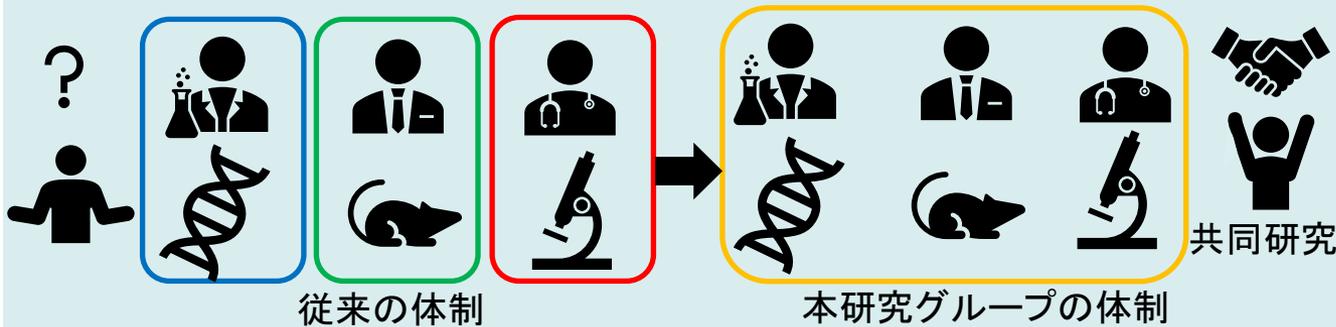
飛田秀樹 (医学・教授) / 松川則之 (医学・教授) / 日比陽子 (医学・教授) / 山田敦朗 (医学・寄附講座教授)

白根道子 (薬学・教授) / 服部光治 (薬学・教授) / 辻村誠一 (芸術工学・教授) / 富永真琴 (なごや先端研究開発センター・特任教授)

脳研を基盤とし、先端的で国際性の高い世界レベルの研究拠点を形成するために以下の3つの研究活動を実施する

## ① 脳神経科学研究活動をサポートするシームレスな研究拠点の形成

グループ内の研究技術・リソースの提供による共同研究の推進



グループへのアクセス整備



## ② 国際的な研究拠点形成に向けた活動

国際的な人材育成支援事業を活用した若手研究者の海外派遣

支援事業期間内の成果を共有する国際シンポジウムの実施



## ③ 若手研究者の人材育成

若手研究者を自立させるための特別指導体制

人件費支援事業を活用した特任助教の雇用



## 支援終了時の達成目標

総出版論文数70本、国際共著論文20本、その内、質の高い研究論文(IF8点以上)の国際共著論文5本の出版

# 光が切り拓く新たな研究開発拠点形成

## 研究活動の構想

光の特性を最大限に活用し、難治性疾患、がん治療、免疫制御、組織修復など幅広い医療領域における新しい治療技術を開発・応用する。

医学・薬学・工学の融合領域  
(名古屋市立大学の優位な学問領域)

光医学・光生物学・化学で国内外トップクラスとなる大きな可能性

研究グループ代表者：森田明理 (医学研究科 加齢・環境皮膚科学・教授)  
研究グループPI:  
片岡洋望 (医学研究科・消化器・代謝内科学・教授)  
山崎小百合 (医学研究科 免疫学・教授)  
青山峰芳 (薬学研究科・病態解析学・教授)  
山中淳平 (薬学研究科 コロイド・高分子物性学・教授)  
西田絵美 (医学部附属西部医療センター・教授)

## 技術基盤

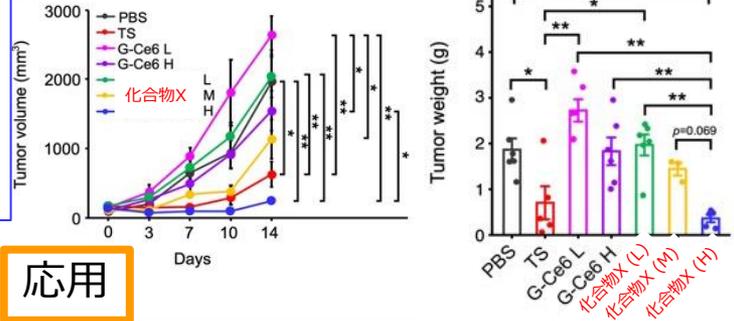
開発したナローバンドUVB・エキシマライト・UVA1・LED化



## 研究グループ

糖、腫瘍ホーミングペプチド連結クロリンe6による次世代光線力学による癌免疫に及ぼす効果の検討 (担当：片岡、青山)

大腸がん同種移植モデル→化合物XによるPDTは、強力な抗腫瘍効果を発揮  
化合物X=グルコース+腫瘍ホーミングペプチド+クロリンe6



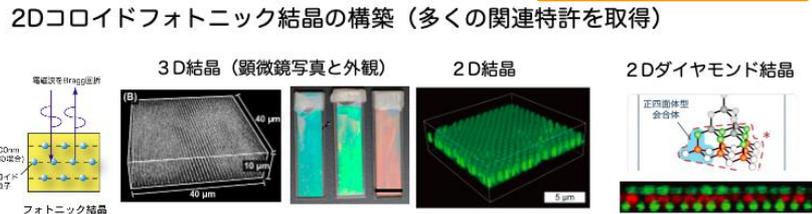
光の波長特性を生かした難治性疾患への基盤的技術開発 (担当：森田、西田)

紫外線(UVB)照射した皮膚で樹状細胞 (DC) とクロストークして増えた制御性T細胞 (Treg) による新しい治療戦略



光線による免疫制御の基礎的解析 (担当：山崎)

光を自由自在に扱う最先端フォトニック結晶技術開発 (担当：山中)



## 本研究活動のゴール

最終的な目標は、光を利用して、難治性疾患や癌の治療に新しい技術を導入することである。光を使った治療法による免疫制御のメカニズムを解明し、新しい治療アプローチを確立することを目指している。